

アドバイザー派遣事業 研修実施レポート

研修実施機関 : 鳥取県高等学校定時制通信制教育研究会
実施日時 : 平成27年7月29日(水) 13:45~14:50
内容 : 講演会「人と人との間で生きる力を高める」
アドバイザー : 山陰労災病院 病院長 大野 耕策 氏

<発達障害を取り巻く社会情勢>

発達障害は法律で規定された概念で、発達障害支援法(平成16年)第二条にその定義が記してある。特別支援教育の在り方についての最終報告(平成15年)によると、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の割合は6.3%で、これは平成10年以降顕著な高止まりの自殺者数、不登校児童生徒数、児童虐待相談数、離婚件数、生活保護受給者数などの社会情勢を受けた日本人の心の問題と大きく関係していると思われる。人との結びつきで大切なことは「想像力」であるが、今日の日本人は他人を思いやる「想像力」が欠如しており、貧困、孤立、対人スキルに直面する人の心の退行が深刻な問題となっている。

<人は人と人との間で人となる> (伊藤隆一氏の言葉)

①乳幼児期に親から愛情が十分に与えられない子は愛着障害の症状(人に助けを求められず、過覚醒、過警戒となり、感情認識や自己調節が困難)を示し、その脳は、虐待を受けた子や低出生体重児の脳と似た前頭葉の発達の未熟さが見られる。

②不注意、多動、衝動性などの症状は、社会的、学業的、職業的活動に直接悪影響を及ぼし、その脳には大脳皮質に成熟の遅れが見られる。ADHDの子は、叱られて自尊心が低下しODD(反抗挑戦性障害)などの二次的障害を引き起こさないような対応(環境調節やSSTなど)が求められる。

③アスペルガー症候群的な性格の子は誤解されやすいが、その対処の原則はSPELLの法則(構造化 Structure、ほめる Positive、共感 Empathy、低刺激 Low arousal、連携 Links)である。

<自閉症スペクトラム症の原因>

アスペルガー症候群は遺伝的な要素も大きいですが、一歳頃に最多になる脳のシナプスの刈り込みの異常が考えられる。使われないシナプス除去と必要な神経回路の強化成熟の異常のため、外部刺激の抑制や選択が困難になる。適切な薬の投薬や服薬でその症状が改善する例もある。

<最後に>

「発達障がい」と呼ばれる子は真の「障がい児」ではなく、人と人との間で人になる過程でつまづきやすい子である。発達障害支援法・特別支援教育は障がいのある子への法律・教育ではなく、学習の遅れが出やすく、想像力や対人スキルの苦手な子を支援して社会に送り出す(障がい者にしない)ための法律・教育である。

感想: 学校現場で教師は生徒に障害のレッテル張りをしがちであるが、まず生徒の特性を理解して自尊心を引き上げながら、医療や福祉と上手につないで、生徒が自立した社会人になるための道筋をつける大切な役割を学校が担っていることを改めて実感することができた。